

第345回 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

日時：平成26年3月17日(月) 18:00

場所：大阪大学医学部講義棟B講堂

「メタボリックシンドロームとしての非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD)」
愛知医科大学内科学講座 (消化器内科) 米田 政志 教授

非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) は非飲酒者で肝への異常脂肪沈着を認める疾患群である。NAFLD は単純性脂肪肝から脂肪性肝炎、肝硬変を含む広い疾患概念であるが、その中には非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) があり、NAFLD の重症型と考えられている。また NAFLD はメタボリックシンドロームの肝での表現型として位置づけられており、最近では NAFLD を基礎とした肝細胞癌の発症が報告され注目を集めている。

NAFLD の診断には画像診断が一般的に用いられ、腹部超音波検査にて診断することが多い。長期にわたる血清肝酵素上昇、血小板減少、線維化マーカーの上昇がある場合は NASH の可能性を考慮しなくてはならないが、確定診断には侵襲的検査である肝生検を必要とする。演者らは NAFLD から NASH を拾い上げる非侵襲的かつ簡便なスクリーニング法として血漿 TGF- β 1 値および elastography を試み概ね良好な結果を得ることができた。

NAFLD の治療は、肥満を元にしたインスリン抵抗性がその大きな原因であるので食事療法と運動療法が基本となるが改善が得られない場合には薬物療法が必要となる。NAFLD 特に NASH に対する標準的な治療法は今だ確立されていないが、演者らは抗酸化療法としてのビタミン E 治療および抗線維化療法としてのアンギオテンシン II 受容体拮抗薬の NASH 患者に対する臨床効果を報告してきた。その他、インスリン抵抗性改善剤、抗コレステロール治療薬等の有用性が報告されているが十分なエビデンスが得られるには至っていない現状にある。

また、現在日本消化器病学会において NAFLD/NASH の診療ガイドラインを作成中であり、最終段階に入っている。我々が担当した NAFLD/NASH の治療に関するガイドライン推奨文も紹介したい。

世話人：大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学 巽 智秀

E-mail: tatsumit@gh.med.osaka-u.ac.jp

次回、第346回 CNC は、栄養管理室 長井 直子先生のお世話で
平成26年4月14日(月)に開催予定です。